

2010年度 入試問題分析シート

千葉大学 文・法経学部

前期日程

科目

国語(古文)

| | | | | | |
|------|-----|--------|-----------------------------------|-----|--------------------|
| 試験時間 | 90分 | 満点(配点) | 文 200点 法経(法 200点 経済・総合政策 150点) | 出題数 | 現代文 1題 古文 1題 漢文 1題 |
|------|-----|--------|-----------------------------------|-----|--------------------|

総括

| | | | |
|----------|----|-----|----|
| 難易度(昨年比) | 難化 | 昨年並 | 易化 |
| 分量(昨年比) | 増加 | 昨年並 | 減少 |

<総論>

問題文は昨年度の680字程度から約220字ほど多くなり、約900字であった。昨年度を除いて、ここ数年、和歌が含まれる文章が選ばれていたが、本年度の問題にも和歌の解釈が問われた。文意に合わせて現代語訳の表現に工夫が求められている。設問数は枝問の総数が9で、昨年度より1つ少ない。昨年度にはなかったような、和歌の解釈の設問があり、文学史の設問が消えた。

<合格への学習対策>

まず古典文法や語法の知識を習得し、語彙力を確かなものとし、読解のための基礎力を養成することである。その上で現代語訳の問題では、文意に沿った訳文を作り出すことができるよう、また説明問題では出題者の意図を正確に把握して解答作成に生かせるよう、答案記述の練習を行うことであろう。

問題分析(本文)

| 問題番号 | 類別(ジャンル) | 出典(著者) | コメント(特徴・出題頻度など) | 本文のレベル |
|------|----------|--------------------------|----------------------------------------------|--------|
| 第二問 | 歌物語 | 『大和物語』149段(十世紀中頃成立。作者不詳) | 『大和物語』の出題はさほど珍しいことではないが、149段の出題は最近ほとんど見られない。 | 標準 |

設問分析

| 問題番号 | 設問番号 | 設問形式 | 設問内容(特徴・解答上のポイントなど) | 設問のレベル |
|------|------|------|------------------------------------------------|--------|
| 第二問 | 一 | 記号選択 | 文法。助動詞「なむ」の識別。 | 易 |
| | 二 | 記述 | 短い語句の現代語訳。基本的な語彙力と文法力が問われている。 | やや易 |
| | 三 | 記述 | 主語を補ってわかりやすく口語訳する。 | 標準 |
| | 四 | 記述 | 主語を補ってわかりやすく口語訳する。 | 標準 |
| | 五 | 記述 | 和歌の解釈。掛詞・序詞等の和歌の修辞法の理解が必要。 | 標準 |
| | 六 | 記述 | 傍線部に表現された内容の説明。60字以内で答える。傍線部以前の内容を要約する。 | 標準 |
| | 七 | 記述 | 傍線部に表現された内容の説明。登場人物の行動を分析した上で、他の登場人物の心情を考えさせる。 | やや難 |

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。